



国立精神・神経医療研究センター
バイオバンク

(倫理指針に則る情報公開)

～次世代の医療のために～

以下の研究は、皆様よりNCNPバイオバンクに提供いただいた臨床試料（検体、おもに血液・髄液等）と臨床情報の利用を倫理委員会で審査され、活用していただくことが認められた研究です。

この研究について知りたいことや、気になる点がありましたら、遠慮なく下記のバイオバンク窓口にご相談ください。ただし、個人情報の保護、知的財産権の保護により、ご対応・ご回答できない場合がありますので予めご了承ください。

- ・本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。
- ・研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

【対象となる方】

2012年12月7日以降にご同意いただいた方で
てんかんと診断された方、特に疾患のない方

【研究課題名】

てんかんの個別化医療における抗てんかん発作薬（ASM）選択のための遺伝子検査の有用性の検討：
バイオバンク登録患者を対象とした後方視的研究

【研究責任者】

倉持泉(国立精神・神経医療研究センター 病院 てんかん診療部 医長)

【本研究の目的及び意義】

てんかんは、子どもから大人まで幅広い年齢層にみられる脳の病気で、発作を繰り返すことが特徴です。多くの方は薬によって発作をコントロールできますが、中には薬が効きにくかったり、副作用が強く出てしまったりする方もいます。

この研究では、患者さんの血液から得られた遺伝子の情報と、薬の効き方や副作用の出方との関係を調べます。特に、すでに治療効果があった薬について、「なぜこの薬が効いたのか」「どんな体質の人に合いやすいのか」を明らかにすることを目指しています。

このような遺伝子の違いを調べることで、将来的には、一人ひとりに合った薬を選ぶ「オーダーメイド医療」につなげることが期待されます。薬の効果を高め、副作用を減らすことができれば、てんかんを持つ方やご家族の生活の質もより良いものになると考えています。

この研究はすでに保管されている検体や診療記録を使って行われるため、新たに採血などをお願いすることはありません。2025年8月現在で全ゲノム解析を行わせていただいているてんかん患者さんにおいては、研究に必要な情報(てんかん発作の病型、発作頻度、薬剤使用歴、副作用の有無、併存疾患)を、診療録から後方視的に収集させていただきます。研究への参加を希望されない場合は、いつでも申し出ていただければ除外いたします。

【本研究に提供する試料・情報】

DNA

年齢、性別、身長・体重、診断、病歴、治療歴、処方、臨床心理指標、薬剤服薬歴、
既にバイオバンクで解析されたデータ（全ゲノム解析データ、炎症マーカーデータ）、診療情報
（てんかん発作の病型、発作頻度、薬剤使用歴、副作用の有無、併存疾患）

提供する試料・情報の取得の方法：バイオバンクにおいて広範な同意を得て収集した試料・情報

【研究期間】

提供後～2030年3月31日

【試料・情報等扱う機関】

なし

(問い合わせ窓口)

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター バイオバンク

所属 メディカル・ゲノムセンター バイオリソース部

電話番号 042-346-3520 E-mail : biobank※ncnp.go.jp (※を@に変更してください)